

公益社団法人 日本ホッケー協会 平成 28 年度第 4 回理事会(臨時)議事録

1 日 時 平成 28 年 11 月 19 日(土) 午後 1 時 00 分～午後 4 時 55 分

2 場 所 貸会議室プラザ八重洲北口 3 階 6 号室
東京都中央区八重洲 1-7-4

3 出席者

理事総数 26 名 出席理事 24 名

(出席)

理事 横田努、寺本祐治、山口修一郎、宮野正喜、高井通昌、瀧上正志、安西浩哉
濱田清二、千野雅人、今庄充世、中村康夫、穴田直樹、中村真理、
山野秀一、古賀久義、林勇次、織井隆司、宮田知、近藤聡史、
内藤亮治(貴詞)、喜久生明夫、野崎博典、長田和雄、中村哲也、

監事 二島豊太、田中誠

(欠席)

理事 馬場治男、奥田好廣

法制顧問 續孝史

(以後、中村康夫を中村康、中村真理を中村真、中村哲也を中村哲と表示する)

4 議 長 横田努 代表理事

5 審議事項

- (1) 第 1 号議案 改革委員会答申
- (2) 第 2 号議案 平成 29 年度国内大会日程
- (3) 第 3 号議案 ワールドリーグ(2019 年～世界のホーム&アウェー方式)
- (4) 第 4 号議案 2022 ワールドカップ招致準備委員会設置
- (5) 第 5 号議案 公認スポーツ指導者資格の義務付け
- (6) 第 6 号議案 登録方法変更
- (7) 第 7 号議案 U18 ニュージーランド遠征
- (8) 第 8 号議案 日本スポーツ賞候補
- (9) その他

議事の経過の要領及びその結果 理事 26 名中 24 名出席

定刻、中村康事務局長が開会を宣言し、本理事会は定款第 36 条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を宣言した。会長である横田代表理事が議長に選出された。議事録作成人に近藤理事、議事録署名人に二島監事、田中監事を選出、議長より 1 号議案は最後に審議する旨の提案があり、2 号議案から審議に入った。

(1) 第 2 号議案 平成 29 年度国内大会日程

資料に基づき千野理事が次のとおり説明を行い、質疑を行った。

千野:国際大会が多く、しかも至近になって日程が変更されることもあり、日程確保に苦慮している。

本年度も国際大会の日程変更に伴い国内日程が変更となった事例がある。

特に質疑がなく、日程について採決を行った。その結果賛成 23 名、反対 0 名で承認された。

(2) 第 3 号議案 ワールドリーグ (WL) (2019 年～世界のホーム&アウェー方式)

古賀理事が次のとおり説明を行い、質疑を行った。

古賀:新しいホームアンドアウェー方式の WL の正式書類は 12 月中旬から発信予定であり、ヒアリングの結果であるが、2019 年から開催見込。参加希望国を男女 7-9 か国の希望を募る。意図は 2 か国をホームアンドアウェーとし、TV 放映をさせる。参加希望国の FIH ランキング、観客動員 4000 人、予算手当ができるかを評価して決定。参加国は 4 年間固定。オリンピック (OG) 出場権には若干影響する見込み。結果はランキングに反映。TV 放映については FIH がコントロールするのでそこは考慮不要。

申込期限は 1 月 20 日とされており次回理事会を 1 月 20 日までに実施しなければならない。

中村康:現時点では参加は難しいかと思う。ただ、予算書、書類もないので本日の審議はできない。

二島:新規事業であるし予算案もないので議決できない。強化の位置づけの事業なら強化本部の予算内でやるという提案とするべき。

山口:OG での新規会場である大井でできるのであれば、OG のレガシーに影響するのではないか。

安西:2019 年にプレ大会実施予定はあるが WL が大井グラウンドを使えるとは限らない。岐阜前提で検討するべきでは。

近藤:大井競技場は 2019 年 6 月には竣工予定である。東京都とレガシーを議論している中であり、後利用で国際大会を誘致できるのであればその面ではメリットが大きい。

中村:予算としては相当の金額がかかる。参加のメリットも大きい。これを比較したうえで検討するべき。参加表明の提出資料も膨大である。

横田:資料もないので審議できない。参加申込締切日を確認のうえ、理事会決議ができる情報を整理して次回の決議としたい。

(3) 第 4 号議案 2022 ワールドカップ招致準備委員会設置

次のとおり中村康事務局長が誘致に関する説明を行い、質疑を行った。

中村康:誘致について半年間をかけて検討したいので検討組織を作りたい。2017 年 5 月の理事会で誘致について審議する予定。委員長は内藤理事を推薦。委員は委員長が決定する。

質疑が終了し、委員会新設および委員長を内藤理事とすることについて採決を行った。その結果賛成 23 名、反対 0 名で承認された。

(4) 第 5 号議案 公認スポーツ指導者資格の義務付け

中村康事務局長が以下の説明を行い、質疑を行った。

中村康：指導員資格により参加ができる特例措置を 1 年間延伸したい。

千野：国体の予選会にも影響がある。更に延伸することは可能か。

中村康：日体協が規程を変更する可能性もあるので、翌年度も延伸の可能性はある。

質疑が終了し、提案内容について採決を行い、賛成 23 名、反対 0 名で承認された。

(5) 第 6 号議案 登録方法変更

千野理事が以下の説明を行い、質疑を行った。

千野：過去には JHA 登録証を配布していなかったこともあったが、馬場理事の尽力により登録者全員に配布できるようになった。本来は専属事務員 1 名相当の業務である。それを本年度は 100 万円程度の委託費で実施。ただ、業者に負担をかけていることもあり、他の多くの NF と同様にインターネット経由による登録方式を採用し、費用の低減を図っていきたい。

瀧上：大会前の駆け込み的な追加登録が多く、それが業者の負担となり委託金額の増額を求められている。同一人による重複登録については、登録金額の減免をしていたが、来年度から減免措置を廃止したい。

宮野：JHA の HP 管理業者に依頼することでコストダウンが図れるのではないか。

瀧上：登録証の印刷、発送業務に費用がかかっている状況であり、シナジーによるコストダウンは見込めないと思われる。

濱田：登録作業が煩雑であるからということを減免措置廃止の理由にすることは理解が得られにくい。

千野：作業が煩雑というのは理由ではなく、本来は登録する役職それぞれに登録料が発生するべきであるという考え方によるもの。

質疑が終了し、来年度から重複登録者の登録費減免措置を廃止するかどうかについて決議を行い、賛成 23 名、反対 0 名で承認された。

(6) 第 7 号議案 U18 ニュージーランド遠征

穴田理事が以下の説明を行い、質疑を行った。

穴田：U18 男子代表はバングラディシュの情勢不安からアジアカップ参加を見送ったこともあり、ニュージーランドのクラブチームでの大会を使って遠征を行いたい。予算はアジアカップの予算を流用。選手はアジアカップ時の選出メンバー、役員は若干変更している。

瀧上：総務委員会財務部は了解している。

千野：自己負担金が高すぎないか。

穴田：昨年度のオーストラリア遠征では 19 万円、ホテルのグレードを抑えるよう交渉中で 20 万円を切るように調整中。

質疑が終了し、提案内容について決議を行い、賛成 23 名、反対 0 名で承認された。

(7) 第 8 号議案 日本スポーツ賞候補

中村康事務局長が以下の説明を行い、質疑を行った。

中村康：読売新聞の日本スポーツ賞候補の推薦を求められている。すでに締切は過ぎており、待ってもらっている状態。時期的に毎年全日本選手権の結果が考慮対象外となっているので、前年度を考慮し天理大学男子チームをスポーツ賞候補として推薦したい。

質疑が終了し、提案内容について決議を行い、賛成 23 名、反対 0 名で承認された。

(8) 第 9 号議案 その他

瀧上理事が以下の説明を行い、質疑を行った。

瀧上：会計検査院のスポーツ団体への 26 年度不適切処理等の指摘がニュースになっている。NF の社会的責任も高くなっている。JHA は 27 年度まで適切にできてはいるが、今年度横田氏が産休ということもあり、適正な会計処理を確実にするために織井氏を嘱託として採用したい。

(織井退席)

野崎：織井氏は嘱託社員となる場合は理事を退任する。

中村康：横田氏は 1 月に産休明けで復帰予定。しばらくは横田氏と並行して実施したいが、事務局長候補を入れてもらいたい。

瀧上：織井氏は事務局長職を固辞している。今年度は海外遠征、事業も多く、難しい経理処理もある。JOC への申請も滞っている状況である。

中村康：織井氏を採用するならば現在のアルバイトの木村氏は不要。しばらくアルバイト契約で様子を見てはどうか。横田氏の体調にもよる。むしろ今すぐ要員を確保したい状況。

瀧上：織井氏は現職を辞して来ることになるので、まずはアルバイトでというのは受け入れ難いのではないか。

宮田：現在事務が停滞気味であり、必ず挽回しなければならない。

瀧上：事務局長については必要なら、別途予算措置をしたい。現在要員は以前より少ない状況なので、事務局長雇用費用がないということにはならない。

山口：現場を知っているのは中村事務局長であるので、そこに一任するのはどうか。

中村康：今年度アルバイトを増やすのは問題ないが、4 月以降をどう契約するかを今後検討したい。今まで 2 年間は 3 人で事務局を運営していた。雇用により 4 月以降の新事務局長契約の足かせになるかが心配。

瀧上：JOC 申請が 5 月分から未提出で遅れている。会計も 4 月までしかできておらず、中間監査もできていない。

質疑が終了し、提案内容について決議を行い、賛成 24 名、保留 4 名で議決された。

横田：保留された方の意見を聞きたい。

(山口、千野・・・中村事務局長に一任 喜久生・・・織井さんを知らない。中村康事務局長が自分は聞いていなかったので賛成しかねると発言)

二島：当事者同士のすり合わせが必要。総務委員会、事務局長、織井氏の話し合いの結果で判断してはどうか。

質疑が終了し、事務局への織井氏雇用については中村康事務局長に一任することについて決議を行い、賛成 19 名、反対 0 名、保留 4 名（高井、瀧上、浜田、野崎）で承認された。

(9) 第 1 号議案 改革委員会答申

横田理事が資料に基づき改革委員会答申の内容についての説明を行い、質疑を行った。

二島：議論に参加していない人は流れがわからない。答申が出されるまでにどういう議論がなされたかを説明頂きたい。

寺本：法制顧問の見解は、「答申案に対し古賀案が出てきた。どちらの案を採用するかを採決するべき。」

二島：答申案は報告するだけ。改革委員会には決定権はない。提案が委員会と古賀さんから出されたという状態。提案は理事の誰が出してもよい。

横田：改革委員会で多くの意見があり、集約が難しい状況であった。独裁的に人事を自分で決める方法もあったが、総会後に新役員が決まるが、すぐに人事ができないことを踏まえて、総会までの間により一層意見集約を図りながら、総会後にすぐに進めるような新体制を作っていきたい。これまでの苦難をこの執行部で乗り切ってきた。そのため今回でドラスティックに変えるという選択肢を取らなかった。次の総会後に全国の声がより反映された人事にしたいと考えている。今の状況で JHA が生き残るベストのチョイスはこの形との判断からの答申内容とした。

二島：次の総会で人事案を出す。5 月までに決定するというのであれば理解できる。

千野：5 月に決めるということは、改革委員会を延長するということか。

横田：答申を出したので改革委員会は解散。

千野：現状維持ならば改革になっていないのではないか。

宮田：リオ結果に対する各都道府県協会へのアンケート結果は厳しい意見が出ている。プロジェクトの結果が期待値を下回れば、辞任するか任を解かれるのが社会常識。いったん強化本部長はリセット頂き、JHA としての姿勢として見せるべきであり、強化本部長に中村氏を推薦する修正動議を出す。

二島：いつまでの人事案か。これが 6 月以降の人事案であれば手続き上の問題があり、幹事として認められない。

寺本：新人事は新会長のもとで実施される。この人事案を基本に総会後の人事案を練りたいということ。

山口：改革委員会では様々な意見があった。少なくとも現状維持の意見はなかった。ただ、個々の意見がそれぞれ異なっている。会長は軋轢を避け、高次元からの考えで現状維持を選択されたということ。

横田：答申に対して意見をもらいたい。次の総会で新会長を迎えたいと考えている。東京 2020 成功のため、より一層すばらしい体制を構築するためにも、それまではこの体制で進めたいということ。新会長が決まれば、支える役員がその後決まっていけばよい。

安西：会長が今季限りの辞任意向なので新会長を定めなければならない。これが委員会発足時点からの状況変化。それを前提にまずはこの体制で進めていきたい。強化本部だけの問題ではない。山口、安西、寺本がそれぞれの責任を取るということ。

山口：改革委員会では寺本氏が専務理事は辞任を表明、中村康夫氏を専務理事にという意見であった。進退伺いを出した理事が自分を推薦することは問題ない。

寺本：リオの総括として強化本部長、専務理事、安西の全員が責任を取るという前提の意見。

長田：専務理事と強化本部長兼務は難しいのでは。さらに事務局長もある。

中村：3つの役職の兼務は難しいのではないか。

山口：自薦他薦も含めて投票してはどうか。

濱田：改革委員会のメンバーは答申内容について会長一任としたのに、そのメンバーの古賀氏が答申内容と違う提案をするのはどうか。

林：改革委員会ではいろいろな意見があった。その結果として答申案が出た。それを先に否決するかどうかを決めるのが先ではないか。

安西：答申案は賛成であるが、リオの総括という意味では責任を取るべきということである。

山口：提案のあった緊急動議だけを先に決議するかは議長が決めるもの。

宮野：改革委員会の答申に対する審議をするべき。

横田：答申案を先に審議を行うことについて決議したい。

答申案の内容を了承するかどうかの決議を先に実施することについての決議を行い賛成15名により了承された。

答申案の内容について了承するか否かの決議を無記名投票において実施し、賛成4名、反対19名により答申案は否決された。

寺本：都道府県協会へのアンケートを行った以上、その結果をフィードバックする必要があることを念頭に置いてもらいたい。

濱田：答申を否決したと報告するのか。

二島：否決ではない。人事について修正動議がでているということ。

山口：強化本部長の立候補者を集めて投票すればどうか。

寺本：リオの結果総括をしなければならない。副会長はなぜ空白だったかの理由を考えてもらいたい。

新会長を迎えるにあたって、新会長をサポートできる人をすぐにやっていただけるように空位としていた。今副会長を決めると新体制では辞めなければならない場合もある。

内藤：会長が辞任意向を示されたこともあり、新会長を探すことが急務となった。現候補者はやるからにはホッケーにつくすとおっしゃっている。そのつなぎ役として副会長を受けたいと考えている。新会長が決まれば、ふさわしい副会長を決めて頂ければと思う。

喜久生：新会長の意向を踏まえて新体制発足時に辞任してもよい。

自薦他薦による副会長候補者の内藤理事、喜久生理事について無記名による選任投票を行った。23票中、内藤理事22票、喜久生理事15票、白紙1票でいずれも過半数を上回る得票となり、副会長として承認された。

自薦他薦による専務理事候補者の寺本理事について無記名による信任投票を行った。23 票中、信任 13 票、不信任 7 票、白紙 3 票で専務理事として信任された。

山野：事務局長をやりながら強化本部長も行うことは可能か。強化本部長は様々なところに行かなければならない。

中村：業務の大変さはわかっているつもりである。来年 4 月には事務局長を退任する予定。

自薦他薦による強化本部長候補者の山口理事、中村康理事について無記名による選任投票を行い、22 票中、中村康理事 11 票、山口理事 10 票、白紙 1 票となり、強化本部長に中村康理事が承認された。

自薦他薦による常務執行理事候補者の山口理事、瀧上理事、安西理事、高井理事、中村安理事、中村真理事、古賀理事について無記名による選任投票を行い、22 票中、安西理事 21 票、山口理事 19 票、中村康理事 19 票、中村真理事 15 票、古賀理事 14 票、瀧上理事 10 票、高井理事 9 票となり、常務執行理事に安西理事、山口理事、中村康理事、中村真理事、古賀理事の選任が承認された。

山野：白票ということはどういうことか。自分の意見を言わないということはどういうことか。この大切な選挙で白票を出される方がいることは残念である。

中村：強化本部長の受任に伴い、技術委員長職は辞さざるを得ないので、後任に千野理事を推薦する。

横田：千野理事に受諾意思はあるか。

千野：ある。

技術委員長に千野理事を指名することについて決議を行い、賛成 22 人、反対 0 人で承認された。

千野：部長人事は理事会決議が必要か。

寺本：委員長以上の役職は理事会決議が必要。その下位役職の部長等は理事会報告事項。

二島：欠席である續法制顧問から連絡があり、理事会決議は基本的に過半数。強化本部長の選任にあたり、中村康理事の獲得票数が過半数ではないので扱いが不明確となっており、明確にする必要がある。議長は投票できないとは規定されておらず、議長の票を確認しておきたい。

横田：内容はどうあれ 11 票を取った中村康理事で進めてもらいたい。

確認の結果、強化本部長を中村康理事とすることが確認された。

【報告事項】

1. ビデオリファラール研修会

- ・男子シニア代表を対象に主要国際大会で大きな戦術的意味を持っているビデオリファールの意味や効果的な活用方法の研修を実施。選手からは概ね好評であったと考えている。ルールや制度に関する解釈や考え方については国際的な流れや情報についていくことが必要であり、ロビー外交も強化してもらいたい。

2. 東京 2020 オリンピック関連

- ・東京都、組織委員会と具体的な施設等について議論を開始している。会場の後利用について、東京はホッケーグラウンド芝をロングパイルに改修したいとの意向で議論になっている。

3. ホッケー日本リーグ機構の法人格取得の件

- ・準備を進めているところであるが、理事の重複等法的な要件に注意してもらいたい。

4. 日本スポーツ振興センター監査

- ・NF の不祥事をマスコミが大きく取り上げるようになってきている。適正な業務処理をしていきたい。

5. 江副記念財団団体補助金

- ・U16 オーストラリア遠征に 110 万円の補助金。これで個人負担金を軽減してもらいたい。

6. 強化本部試合結果

- ・資料のとおり。

7. 平成 28 年度賛助会員・特別協賛金納入状況

- ・各理事は割り当てされた金額を納入してもらいたい。

8. 関西ワールドマスターズゲームズ 2021

- ・滋賀で開催が決定した。

9. その他

- ・外国人 HC の公募状況について、オファーはしているが、どのような形で FIH から公表されるかはわからない。先週まで FIH は総会で手一杯だったはずで、今後プッシュしたい
- ・オーストラリアと日本の事業協力の MOU を東京で調印予定。

以上をもって議事の全部の審議を終了したので、議長は 16 時 55 分、閉会を宣した。

上記記録を明確にするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人が自署捺印する。

平成 28 年 11 月 19 日

議事録署名人

監 事

議事録署名人

監 事

議 長